

# 衛生学

## 1 構 成 員

	平成 13 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
助教授	1 人	
助手（うち病院籍）	2 人	(0 人)
大学院学生（うち他講座から）	0 人	( 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技官	0 人	
その他（技術補佐員等）	1 人	
合計	5 人	

## 2 教官の異動状況

- 青木 伸雄（教授）（期間中現職）
- 杉本 弘司（助教授）（期間中現職）
- 鈴木（中村）美詠子（助手）（期間中現職）
- 久保 伸朗（助手）（期間中現職）

## 3 研究業績

	平成 12 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0 編	( 編)
そのインパクトファクターの合計	0	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	2 編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	4 編	(4 編)
そのインパクトファクターの合計	0	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	5 編	(5 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	( 編)
(6) 国際学会発表数	1 編	

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

## (2) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. N Aoki, M Nakamura (2000) Regional Difference of Health Indices and Nutritional Factors of Life-style Related Diseases in Shizuoka, Japan. Proceedings of the fourth Shizuoka forum on health and longevity. 108-113.
  2. 中村美詠子 (2001) 国民栄養調査における五訂成分表の活用方法に関する考え方 健康科学総合研究事業公開シンポジウム 国民栄養調査の基盤作り－五訂食品成分表とこれからの食事調査－ 10-11.
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

## (3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 中村美詠子 (2001) 栄養学における疫学の役割. 栄養学雑誌 59:43-45.
  2. 中村美詠子, 青木伸雄, 中島務, 星野知之, 横山徹爾, 森岡聖次, 川村孝, 田中平三, 橋本勉, 大野良之, 福田論, 宇佐美真一, 喜多村健, 神崎仁, 福島邦博, 牧島和見, 東野哲也 (2001) 突発性難聴と生活習慣の関連：pooled control を用いた症例対照研究. 厚生科学研究特定疾患対策研究事業 特定疾患の疫学に関する研究班 平成12年度研究業績集 225-230.
  3. 青木伸雄, 中村美詠子, 白木まさ子, 大石邦枝, 亀山良子 (2001) 静岡県栄養士と家族の健康栄養調査報告書 1-34.
  4. 青木伸雄, 中村美詠子, 仲村秀子 (2001) 静岡県における健康づくり指標集
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

るもの

#### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 青木伸雄 (2000) 循環器疾患と生活習慣. 21世紀の医学・医療—すこやかな生と死を— (静岡新聞社) 85-92.
2. 青木伸雄, 中村美詠子 (2000) ウィリス動脈輪閉塞症—ウィリス動脈輪閉塞症. 大野良之, 田中平三, 中谷比呂樹, 黒川清, 齋藤英彦編. 難病の最新情報—疫学から臨床・ケアまで. 南山堂. 212-213.
3. 青木伸雄, 中村美詠子 (2000) 急性高度難聴—突発性難聴. 大野良之, 田中平三, 中谷比呂樹, 黒川清, 齋藤英彦編. 難病の最新情報—疫学から臨床・ケアまで. 南山堂. 232-233.
4. 青木伸雄, 中村美詠子 (2000) 急性高度難聴—特発性両側性感音難聴. 大野良之, 田中平三, 中谷比呂樹, 黒川清, 齋藤英彦編. 難病の最新情報—疫学から臨床・ケアまで. 南山堂. 237-238.
5. 青木伸雄 (2001) 健康づくり. 稲葉裕, 野崎貞彦編. 新簡明衛生公衆衛生 改訂4版. 南山堂. 121-134.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者, 共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが, 当該教室に所属する者が含まれるもの

#### (5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者, 共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが, 当該教室に所属する者が含まれるもの

#### (6) 国際学会発表

1. Yoshiike N, Ichimura K, Iwaoka H, Katagiri A, Ishida H, Nakamura M, Matsumura Y.

(2000) A computer network system for the nation-wide nutrition monitoring survey in Japan. Third Asian Conference on Food Safety and Nutrition.

#### 4 特許等の出願状況

	平成 12 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成 12 年度
(1) 文部省科学研究費	1 件 ( 60 万円)
(2) 厚生省科学研究費	2 件 ( 65 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 ( 万円)
(4) 財団助成金	1 件 ( 200 万円)
(5) 受託研究または共同研究	3 件 ( 105 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	2 件 ( 87 万円)

##### (1) 文部省科学研究費

中村美詠子（代表者） 基盤研究（C）（2） 「食塩摂取量及び血圧に対する低Na調味料の二重盲検無作為化試験」 60万円（新規）

##### (2) 厚生省科学研究費

青木伸雄（分担者） 特定疾患疾患対策研究事業 特定疾患の疫学に関する研究班 「突発性難聴の発症要因に関するケース・クロスオーバー研究」 50万円（継続） 代表者 順天堂大学医学部教授 稲葉裕

青木伸雄（分担者） 「循環器疾患基礎調査の有効利用に関する研究」 15万円（新規） 代表者 日本循環器管理協議会事務局長 澤井廣量

##### (4) 財団助成金

中村美詠子（代表者） 財団法人全国米穀協会 ごはん食基礎データ蓄積事業研究助成 「新しい日本型食事パターン，およびその評価システムの開発に関する実践栄養学的研究」 200万円（新規）

##### (5) 受託研究または共同研究

青木伸雄 静岡県「静岡県の保健福祉指標の地域差に関する研究」 50万円（新規）

中村美詠子 共同研究「国民栄養調査の再構築に関する研究」 25万円（継続）

中村美詠子 共同研究「国民栄養調査の基盤整備に関する研究」 30万円（新規）

## 6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

## 7 学会活動

	平成 12 年度
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件
(2) 国際・国内シンポジウム発表数	1 件
(3) 学会座長回数	1 件
(4) 学会開催回数	0 件
(5) 学会役員等回数	6 件

### (2) 国際・国内シンポジウム発表

中村美詠子 (2001) 国民栄養調査における五訂成分表の活用方法に関する考え方, 健康科学総合研究事業公開シンポジウム 国民栄養調査の基盤作り－五訂食品成分表とこれからの食事調査－, 3月, 東京

### (3) 座長をした学会名

日本循環器管理研究協議会 (2000)

### (5) 役職についている学会名とその役割

青木伸雄	日本循環器管理研究協議会	理事
	日本栄養改善学会	理事
	東海公衆衛生学会	理事
	日本公衆衛生学会	評議員, 査読委員
	日本疫学会	評議員
	日本衛生学会	評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	平成 12 年度
学術雑誌編集数	0 件

## 9 共同研究の実施状況

	平成 12 年度
(1) 国際共同研究	1 件
(2) 国内共同研究	7 件
(3) 学内共同研究	0 件

### (1) 国際共同研究

Xin-Hua Zhang (Institute for International Health, The University of Sydney), 他 アジア太平洋地域におけるコホート共同研究

## (2) 国内共同研究

吹野洋子（静岡県立大学食品栄養科学部） 緑茶飲用の健康への効用に関する疫学共同研究

澤井廣量（日本循環器管理協議会），他 循環器疾患基礎調査の有効利用に関する研究

中島務（名古屋大学医学部），他 突発性難聴に関する症例対照研究

白木まさ子（静岡県立大学短大部），他 食事調査方法論に関する基礎的研究

那須恵子（静岡県立大学短大部） 赤血球変形能に関する疫学的研究

吉池信男（国立健康栄養研究所），他 国民栄養調査の再構築に関する研究

吉池信男（国立健康栄養研究所），他 国民栄養調査の基盤整備に関する研究

## 10 産学共同研究

	平成 12 年度
産学共同研究	0 件

## 11 受賞（学会賞等）

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. アジア太平洋地域におけるコホート共同研究

アジア太平洋地域の7か国（オーストラリア，ニュージーランド，日本，中国，韓国，台湾，シンガポール）の共同研究として，コホート研究のメタアナリシスを実施した．対象は循環器疾患を中心とした主要疾患，及び事故である．関連要因として，欧米等の研究で既にリスクファクターとして確立された血圧，肥満，喫煙等を取り上げている．しかし，これらの要因と疾患，事故の関連の強さ，疾病負荷の大きさを年齢階級別に明らかにした大規模研究はなく，本研究は21世紀におけるアジア太平洋地域の疾病対策における基礎データを提供するものとして意義を持つ．本年はデータの収集及びクリーニングをほぼ終了し，基本的な検討を行った．（中村美詠子，青木伸雄）

### 2. 緑茶飲用の健康への効用に関する疫学共同研究

これまでの研究により，緑茶飲用の健康に対する好ましい効果が推定されたので，一定量のポリフェノールを含む緑茶粉末を開発した．これを用いて真に効果があるのかどうかの確認と，効果の量的評価を行うために，生活習慣病を有する者について介入研究を進めている．（青木伸雄）

### 3. 循環器疾患基礎調査の有効利用に関する研究

平成12年に実施された循環器疾患基礎調査（全国調査）において得られたデータを解析していく上での第一歩として，我々のグループは心電図について判定基準の統一と診断トレーニングを行い，心電図判定を行った．（青木伸雄，中村美詠子）

### 4. 静岡県における保健福祉指標の地域差に関する研究

静岡県民の健康づくりに活用するための基礎資料として，静岡県下の市町村別人口，生活習慣病等死亡率，受療率，高血圧や高脂血症等の危険因子，またこれらと関連する生活習慣等の状況を把握し，

新しく開発したプログラムを用いて、地域において保健対策の計画、実施、評価に有用なわかりやすい指標集を作成した。本指標集は今後静岡県における健康づくりのためのグローバルなデータベースを構築する際の基盤となるものである。（青木伸雄，中村美詠子，仲村秀子）

#### 5. 突発性難聴に関する症例対照研究

昨年までのプールドコントロールを用いた症例対照研究において、突発性難聴と食事性要因、飲酒等との関連が明らかにされた。本研究は更に突発性難聴のこれらの生活習慣要因との関連を疫学的に明らかにすることを目的とし、あらたなデザイン（ケースクロスオーバーデザインと取り入れた症例対照研究）を用いて、研究を開始した。これは、本疾患に特徴的な発症様式（突然発症）に着目した研究方法である。本年は調査票を完成し、症例、及び対照の収集を開始した。（中村美詠子，青木伸雄）

#### 6. 食事調査方法論に関する基礎的研究

食事調査の方法論を確立すること等を目的とした基礎的研究である。本年度はデータクリーニングをほぼ終了し、食事記録調査の実施可能性、その他に関する基礎的検討を行った。（中村美詠子，青木伸雄）

#### 7. 赤血球変形能に関する疫学的研究

赤血球変形能に関する疫学調査を終了し、クロスセクショナルな解析を実施中である。

（青木伸雄，中村美詠子）

#### 8. 国民栄養調査の再構築に関する研究

継続研究として、国民栄養調査を初めとした食事記録調査の精度向上に貢献する栄養計算システムを開発した。本年は従来のマニュアル法と本システムを用いた場合の作業効率、及び作業精度等を比較するために実験的検討を行ったところ、本システムの使用によりマニュアル法では防ぎ得なかったエラーの確実な減少がみられ、本システムの有効性を確認した。（中村美詠子）

#### 9. 国民栄養調査の基盤整備に関する研究

国民栄養調査は、国民の栄養食物の摂取状況に関する基礎的データを提供する調査であるが、時代の変遷とともに、その方法論の見なおしが必要とされている。平成12年に公表された五訂日本食品標準成分表の適用とともに、調査精度の向上を中心とした方法論に関する検討を行い、平成13年に予定される改訂にむけて理論的な基盤整備を行った。（中村美詠子）

#### 10. 低Na調味料に関する二重盲検無作為化試験

日本人の食塩摂取量は食塩系調味料（醤油，味噌等）からの摂取が約半分を占めており、欧米とは際立って異なった特徴を示している。本研究の目的は日本型食生活を維持しつつ、減塩を達成するために、低Na調味料の使用が有効であるか、また低Na調味料は高血圧対策のポピュレーション・ストラテジーに有用であるかを評価することである。本年は、低Na調味料が食塩摂取量に及ぼす影響を二重盲検無作為化比較試験（クロスオーバー法）により検討したところ、低Na調味料の使用によ

り 24 時間蓄尿で評価した食塩摂取量は減少することが確認された。(中村美詠子, 久保伸朗, 青木伸雄)

#### 11. 日本型食事パターンに関する研究

食事と健康との関連は主に栄養素, 及び食品摂取量との関連について研究されてきた。しかし, 人の食事は単一の栄養素や食品で構成されることはないため, これらを総合的に評価する一指標として「食事パターン」が有用であると推測される。本研究では健康と食事パターンに関する研究を推進するための第一段階として, 食事を栄養素, 食品のみならず, 食事パターンとして評価するためのシステムを開発した。今後, 新たに開発したシステムを用いて, 好ましい食事パターンに関する検討を行う。(中村美詠子, 青木伸雄)

### 13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

1. 平成 12 年に実施された厚生省循環器疾患基礎調査(全国調査)における心電図診断グループの一員として, 心電図判定の精度管理に貢献した。
2. 平成 13 年より改訂予定の厚生労働省国民栄養調査における基盤整備に関する検討委員として, 方法論に関する理論的整理を行った。

### 14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

1. アジア太平洋地域におけるコホート共同研究では, 最終報告を前にした基礎的検討を行っているが, 本研究結果はWHOにおけるアジア太平洋地域における疾病負荷を予測する基礎データとして活用される予定である (Global burden of disease collaboration)。

### 15 新聞, 雑誌等による報道